

「パウロの自己紹介」

ローマの信徒への手紙 1 章 1 節

「1:1 キリスト・イエスの僕、神の福音のために選
び出され、召されて使徒となったパウロから」

今日からゆっくりローマの信徒への手紙を学んで
いきたいと思います。

本来は手紙ですから、区切りをつけず最後まで一
気に読んでしまうことが当然なのですが、学びを意
識し、パウロが何を伝えようとしているのかを
しっかり受け止めるために、便宜的に区切ってお話
をしていこうと思います。

今日は最初の挨拶の言葉です。パウロの自己
紹介です。

パウロは「キリスト・イエスの僕」「神の福音
のために選び出された存在」「召されて使徒とな
った存在」という3つのことを挙げています。

1) しもべ：奴隷

私たちは誰の奴隷になることも、何の奴隷にな
ることも望みませんが、実際的には、誰かに「仕
える」ことが私たちの人生の当たり前の出来事
になってしまっています。

ボブ・ディランが Serve somebody という歌を
書いています。

「あなたはイギリスやフランスへの大使かもし
れない

ギャンブルが好きかもしれないし、ダンスが好
きかもしれない

ヘビー級チャンピオンかもしれない、真珠の
ネックレスを付けて社交を楽しんでいるかもし
れない

でも、あなたは誰かに仕えなきゃ生きられ
ない、そうさ誰かに仕えるのさ

悪魔に仕えるか、あるいは主に仕えるか、い
ずれにしても仕えなきゃならないのさ」

気づかないうちに私たちは誰かの、あるいは
何かの奴隷のようになってしまっている可能性
があります。人は誰かと関わりつつ、生きる存
在だからです。

パウロは、わたしはキリスト・イエスの奴隷
です。と宣言しています。それを語ってはばか
らないのです。常にイエスさまを思い、イエ
スさまを意識し、イエスさまの名誉を感じな
がら生きていたのです。普通、奴隷という言
葉を用いることには抵抗を感じ、恥を感じる
ことが多いかもしれません。

「酒の奴隷」とか「社長の奴隷」とかいう表
現にはあまり尊厳を感じません。奴隷は主人
の思いのままに動く存在だからです。

しかし、パウロは「キリストの奴隷」という
表現をむしろ、自信をもって、語っています。

2) 福音のために選ばれ

奴隷でありながら、パウロには大切な役割
が託されていました。

「福音のために選び出され」と言葉が続い
ています。役割を託された奴隷です。神の福
音、キリストの福音を語り、生き、伝える
ために多くの人たちの中から選ばれた存在
なのだということです。神によってこの使
命のために選ばれ、役割を託された存在で
あることをパウロは自覚しています。

3) 使徒として召された

「使徒」というと12使徒を連想しますが、
使徒という言葉は「大事なメッセージを伝
えるために派遣されたもの」「大使・代理
人」という意味があります。イエスさまか
ら召し出されて、派遣されるべき代理人
として生かされているという自覚をパウロ
は持っています。

考えてみるととてもパウロらしさが浮か
んできません。ある意味で高邁な役目、立
場である「福音のために選ばれ」「使徒と
して召された」パウロであるにもかかわらず
、「キリストの奴隷」としての立ち位置を
しっかり示しているからです。

選ばれたもの、召し出されたものという
のは特別な価値のある、意味深い存在と考
えられますし、自分がそうだったらいつの
間にか高慢な態度で、上から目線で人々
を牛耳ってやろうと考えても不思議はあ
りません。

しかし、パウロは、そうではありません
でした。役割は重大であり、召し出され、
選ばれたことは名

誉あることなのですが、彼は、自分にそういう立場や役目を与えてくださったイエスさまに感謝し、そのお方の僕としての意識をもって自己紹介をしているのです。

自分のすごさとか、自分の能力の特殊性とか、自分の手柄とかをまったく考えに入れることなく「キリストの奴隷パウロ」という立ち位置でこの手紙を書き始めているのです。

よくよく考えると、パウロのようなダイナミックな役目でないとしても、あなたがイエスさまに出会い、信頼し、救い主として礼拝しているのであれば、あなたも、わたしもパウロと同じように「選び出され、召されている存在」と考えることができます。

イエスさまは、意味をもって、私たちひとりひとりに近づき、あなたはあの人とは違う存在として赦し、癒し、立ち直らせてくださったのですから、間違いなく、あなたも選ばれ、召されて生かされています。つまり、私たちの人生は「イエスさまが責任をもって守り、助け、役割を与えてくださる」という道なのです。

ですから、マザーテレサの祈りにあるように「わたしをお使いください」という意識はとても大切です。その態度で「選ばれたもの」「召し出されたもの」としてイエスさまに応えていく姿勢こそ大切だからです。

「わたしをお使いください」

主よ 今日1日 貧しい人や病んでいる人々を助けるために

私の手をお望みでしたら今日 私のこの手をお使い下さい

主よ 今日1日 友を求める小さな人々を訪れるために

私の足をお望みでしたら今日 私のこの足をお使い下さい

主よ 今日1日 優しい言葉に飢えている人々と語り合うために

私の声をお望みでしたら今日 私のこの声をお使い下さい

主よ 今日1日 人というだけで どんな人々も

愛するために

私の心をお望みでしたら今日 私のこの心をお使い下さい

++

この祈りの心は大切です。

重要なことは、どれだけ大きなことを成し遂げるかではないのです。選び出され、召されたものとしてどれだけ誠実に主イエスさまの心に応答しながら生きているか、それが重要なのです。

私たちの心がいつも主イエスさまと「ひとつ」であることは難しいことです。

でも、パウロはだからこそ「わたしは主の奴隷」ですと語り、自制的に自分をイエスさまの心の内側に置いて生きようとしているのです。主人の意向は何なのかに注意を向けつつ生きているのです。

主に従うことは、実は喜びなのです。

主の心を知ってその線にそって歩むことは、祝福なのです。そしてその基本は「主への愛」「託された人たちへの愛」です。

祝福がありますように。

+++

新型コロナウイルスの流行のため、外出の際の注意喚起がなされ、集団での会合が自粛を求められたりしています。今のところ、MACFの礼拝をおやすみする必要は感じていませんが、参加者のみなさま、くれぐれもご無理のありませんように。

体調に十分ご留意ください。